

# 生活再建の種まこう

## 石巻に被災者向け農園開設

石巻市などで心の不調を抱えた若者の就労、就学支援を展開するNPO法人「スイッチ」(仙台市)が、東日本大震災の被災者向けの農園「イシノマキ・ファーム」を石巻市内に開設した。仮設住宅などで引きこもりがちな住民の一時的な就労の場と位置付け、農作業を生活再建へのステップにしてもらう仕組みで、参加者を募っている。

### 仙台のNPO 働く意欲向上後押し

ファームの事業は、石巻、東松島両市と女川町の居住者を対象にしている。石巻市の旧北上川河川敷に整備した畑約30㏦で、参加者はチームで草刈りや野菜の種まき、収穫などの作業に従事する。

活動は毎週木曜日で、3〜4時間作業する。参加者には日当3000円が支払われる。定員は10人程度で、半数はJR石巻駅近くの事務所から送迎が可能だ。

8月27日にあった作業には20代〜50代の6人が参加。市内の農家から指導を受け、ピーマンやナスなどを収穫した後、大根の種をまいた。

市内の仮設住宅で暮らす無職佐藤清さん(56)は2回目の参加で、両脚のけがの一時就労の場となる畑で作業をする参加者らに「石巻市東福田

リハビリを兼ねて参加しては体力がつく。1人暮らしなので他人とコミュニケーションが取れるのもうれしいと話した。

野菜は市内の飲食店に卸すほか、スイッチが運営する「イシノマキ・マルシェ」で販売し、売り上げは活動費に充てる。袋詰めや事務所前での直売を体験する参加者もいて、こちらの日当は2000円で、定員は5人程度。参加者は商品流通などの研修を受けるほかに、ストレスとの向き合い方などについても学ぶ。

スイッチの今野純太郎常務理事(44)は「体を動かしたり作物の成長を見たりすることが働く意欲の向上につながる。外に出るきっかけのない人や今後の進路に悩んでいる人の受け皿となり、自立を促す支援をしたい」と語る。

参加にはいずれも事前面談が必要。連絡先は0225(25)5374。



スイッチの今野純太郎常務理事(44)は「体を動かしたり作物の成長を見たりすることが働く意欲の向上につながる。外に出るきっかけのない人や今後の進路に悩んでいる人の受け皿となり、自立を促す支援をしたい」と語る。

参加にはいずれも事前面談が必要。連絡先は0225(25)5374。



### 北の海から

本格的な水揚げシーズンの北海道秋サケの試食会が若林区の市中央卸売市場から旬の味覚が振る舞われる。水産卸の仙台水産(若菜)は、秋サケの試食会に、秋サケのマス・タンドマヨ炒め、試食した食品卸売会社社長(40)「七ヶ浜町」

### 原発事故想定

### 県指針

### 避難先

東松島市の阿部秀保市長は8日、東北電力女川原発(女川町、石巻市)の重大事故を想定した広域避難計